



ORACLE

イノベーション・ガイド

Oracle Fusion Analytics



はじめに

「存在し続けるのは、変化のみである。」と言ったのは、ギリシャの哲学者であるヘラクレイトスでした。それは周知の事実ですが、近年の変化のスピードは、以前にも増して激しいものになっています。今や、私たちのプライベートや仕事において起こっている変化を予測しようとするのはおろか、対応することすら困難な場合が多いのです。

今、企業は、かつてないほどの人材の流動、サプライチェーンの混乱、売上変動など、さまざまな問題に取り組んでいます。こうした変化に先立ち、ビジネスにおけるポジティブな変革を推進できる企業こそが、自社のポジションを再定義し、社内外の勝利を収めることができるのです。



ビジネスを変革する企業は、イノベーションを絶えず起こすことで成長しています。その中でテクノロジーは、より深い分析やインサイトを提供するという観点で、重要な役割を担っています。

どの企業も、顧客や製品、その他の外部要因によって生まれる、さまざまなデータを処理しています。そしてその量は膨大であり、増加の一途を辿っています。またそうしたデータに対して、経営層から現場の従業員に至るまで、幅広い層から寄せられる質問に答えるためには、革新的な分析が必要なのです。



出勤からリモートワークへの切替えによる財務的な影響はどの程度だったのか？



サプライチェーンの混乱において発生した、出荷を早める対応コストは投資対効果があったのか？



需要の急増に対応するために従業員を増員した場合、キャッシュフローにどのような影響を与えるか？



人手不足は、売上やキャッシュフロー、従業員の士気にどのような影響を与えたか？



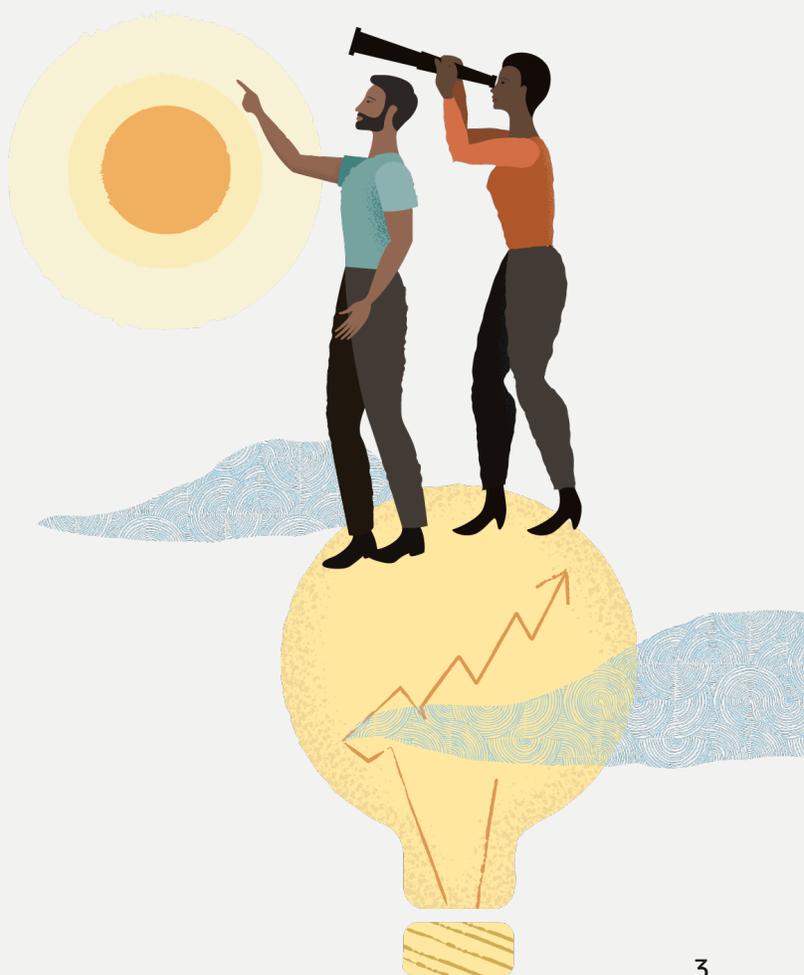
在庫制限は、売上や返品、顧客満足度にどのような影響を与えるか？



業績を包括的に把握できないことのリスク

なぜ業務部門全体でタイムリーで正確な情報を得ることが難しいかというと、業務プロセスは部門を横断しているものだからです。業務を包括的かつ統一化された形で把握できないと、企業には次のようなリスクが発生します。

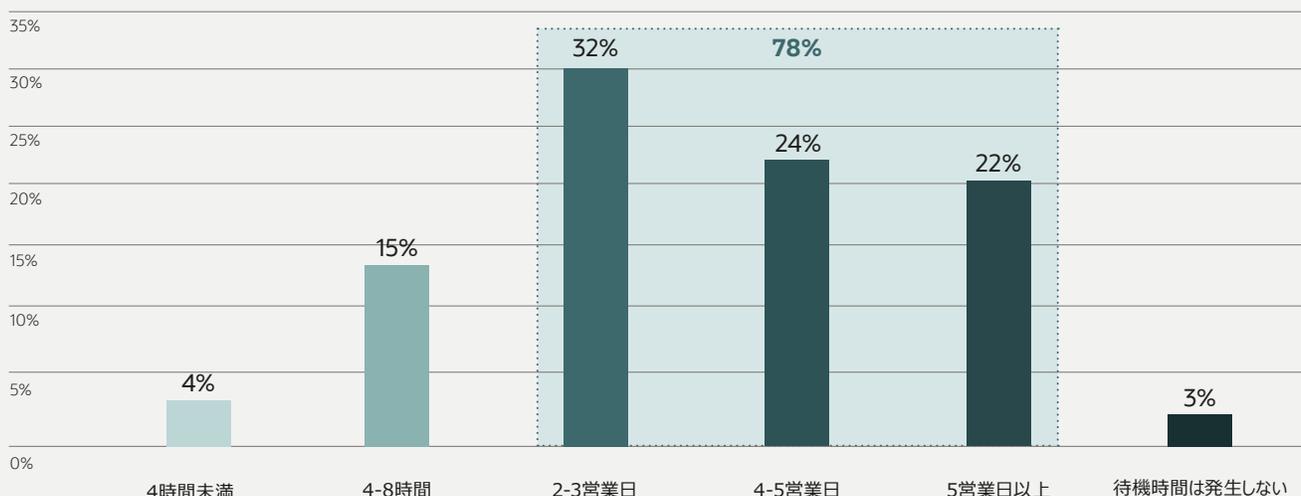
- ✕ 業績把握が断片的かつ不完全であることに起因して、**適切でないビジネス上の意思決定**がなされる
- ✕ データ操作がマニュアルのため、煩雑でミスが起こりやすく、結果として**生産性が低下**
- ✕ **共通言語の欠如**と測定プロセスの欠如により、生産性が低下し、業績に影響を与える
- ✕ 業績やトレンドのインサイトが不足し、**戦略方針がまとまらない**
- ✕ 複数の領域でソフトウェア・ツールを重複して使用し、レポートや分析の複製によって発生する**業務コストの増大**



部門横断的なビジネス・アナリティクスの導入が難しい理由

それは、ビジネス・リーダーは以下のリスクを知っているからです。最近の調査によると、回答者の93%が「他部門から正確なデータを入手するのは難しい」と回答しています。回答者の75%以上が、「他部門から必要なデータを受領するのに、最低でも2営業日はかかる」と回答しています。

他部門からデータを受領する際に発生する待機時間



Wait time for data.出典: Dimensional Research, 2022

また、[Harvard Business Reviewの調査](#)によると、回答者の86%が、データがサイロ化が原因で情報に不足し、CFOやCHRO、CIOが人材に関する適切な意思決定ができていないと回答しています。

特定の部門に閉じた形で利用されているアプリケーションに存在する膨大なデータは、本来、他部門のデータと組み合わせることで有益なインサイトを得ることができます。しかし、こうしたシステムのサイロ化は、データの重複、エラー、手作業、プロセスの遅延を招いています。こうしたケースにおけるデータ分析というのは、往々にして表計算ソフトを使って行われます。しかし表計算ソフトの場合、バージョン管理や共同作業の容易さ、拡張性などの観点で、不十分な点が多くあります。また表計算ソフトでは計算ミスやセキュリティ・リスクがあり、コーポレート・ガバナンスのガイドラインを満たしていないことも少なくありません。

部門横断的なビジネス・アナリティクスのベストプラクティス

こうした障壁に対して必要とされるのは分析フレームワークです。これにより、構造的な断絶とテクノロジーの制約を打破します。そのためには、エンタープライズ・リソース・プランニング (ERP)、人材管理 (HCM)、サプライチェーン・マネジメント (SCM)、カスタマー・エクスペリエンス (CX)、その他関連するソースからのデータを統合できる、クラウドベースのプラットフォームが必要です。これにより、業績に対して誰もが見て納得できる共通の「窓」を実現します。ビジネス全体を正確に把握するには、次の点で役立つアナリティクスの導入が必要です。

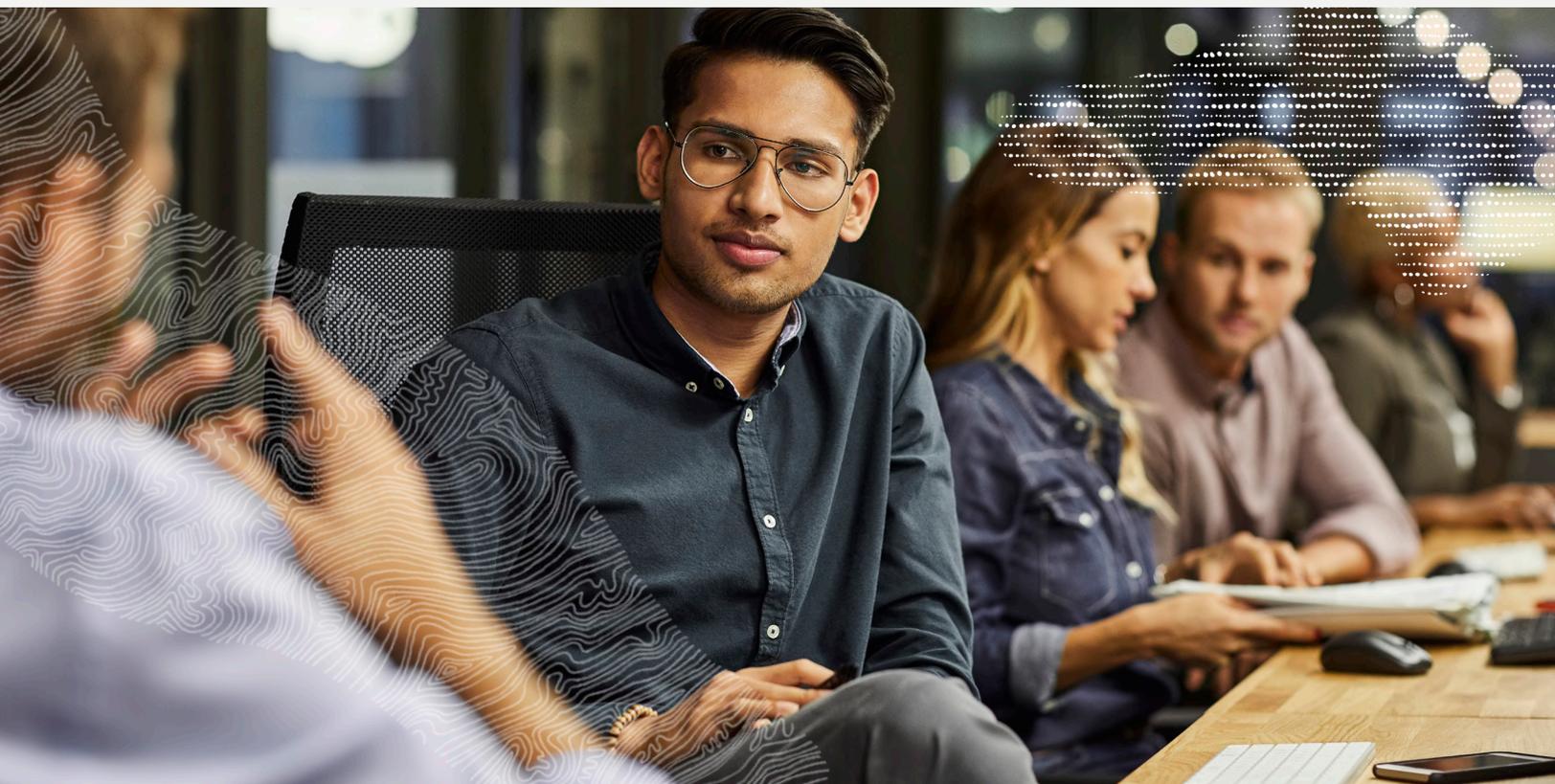
- ✓ 適切なデータ・セキュリティ・ポリシーに基づき、ビジネスの複数の領域からデータを組み合わせることで、**データのサイロ化を解消**できる
- ✓ **コラボレーションしやすく、アナリティクス・ドリブンの意思決定の文化**を醸成できる
- ✓ **データへのアクセスを民主化**し、ロールベースのガバナンスを実装できる
- ✓ 業務プロセス全体の**データの取り込み**ができる
- ✓ 誰でも**分析ツールにアクセス可能**である
- ✓ 部門を横断して**経営層のサポート**を得られる



Oracleが支援できること

Oracle Fusion Analyticsは、すべてのOracle Cloud Applications (ERP、HCM、SCM、CX) にわたって拡張可能なデータ・モデルでデータのサイロを解消する、一元化されたクラウド・ネイティブな分析アプリケーション群です。Oracle Fusion Analyticsを使用すると、以下のことが可能になります。

- ✓ アプリケーションのデータ・ソースを組み合わせ、ビジネスの全体像を把握できる
- ✓ すべての業績データをひとつの場所で確認できる
- ✓ 部門間の相関関係を簡単に見つけられる
- ✓ 各部門のデータをビジネス・ゴールにつなげられる
- ✓ 各部門を横断するプロセス（受注から入金、調達から支払、従業員、サプライチェーンなど）の可視化を改善し、パフォーマンスを最適化する方法を見つけることができる
- ✓ 部門間の調整やコラボレーションを改善できる
- ✓ 各部門の戦略と戦術を連携できる



Oracle Fusion Analyticsには、部門を横断した業務を正確かつ分かりやすく把握できる機能がすべて備わっています。



事前構築により、 インサイト獲得までの所要時間の短縮

数か月ではなく、数週間単位で導入できます。コーディングも不要であり、迅速に実装することができます。分析ワークフロー全体のための事前構築済みのコンポーネント（すぐに使えるKPIやダッシュボードから、単一のデータ・モデル、Oracle Fusion Cloud Applications用のパイプラインまで）が含まれています。



お客様のビジネスに合わせて拡張可能

サードパーティのソースからのデータ取り込みも容易に行うことができます。セルフサービス・ツールにより、カスタム・ヴィジュアライゼーションおよびレポートを作成することや、オラクル以外のシステムを含めた形で分析を拡張することが可能です。



ビジネスの全体像の把握が可能

Oracle Fusion Analyticsが持つ、単一で拡張可能な分析用データ・モデルによって、ビジネス機能全体のKPIとヴィジュアライゼーションを連携させることができます。



あらゆるものに対する機械学習の適用

データ・サイエンティストでなくても、インサイトを得ることができます。強力な機械学習と予測アナリティクスが組み込まれており、すべての人が使用することができます。データの準備や可視化、パターン検出および予測といった作業は不要です。



シンプルで直感的なユーザー・エクスペリエンス

ニーズに合わせてユーザー・エクスペリエンスをパーソナライズすることができます。さらに、自然言語を使って質問し、口頭で回答を得ることも可能です。



スタートしてみましょう

Oracle Analyticsを導入することで、部門を超えた全体像をタイムリーに把握することができます。財務、人事、マーケティング、サプライチェーンの各リーダーが連携し、最高のビジネスパフォーマンスとは何かを真に理解し、達成することができます。

Oracle Fusion Analyticsがイノベーションと競争においてどのように役立つかについての詳細は、[Webサイト](#)をご覧ください。ビジネスの統合的な分析がもたらす5つのポイントには、この[インフォグラフィック](#)をご覧ください。さらに情報が必要な場合は、[お問い合わせ](#)ください。

サイトにアクセスする



Copyright © 2022, Oracle and/or its affiliates.この文書は情報提供のみを目的とし、内容は予告なく変更される場合があります。この文書は、誤りのないことを保証するものではなく、口頭や法の指示によるいずれの場合も、販売可能性や特定用途への適合性について暗黙の保証や条件を含め、その他の保証や条件の対象となるものでもありません。当社はこの文書に関する一切の責任を放棄し、この文書による直接的または間接的な契約上の義務は生じないものとします。この文書は、いかなる形式や手段によっても、どのような目的でも事前の書面による承諾なく、電子的または機械的に再生または送信することを禁じます。OracleおよびJavaはOracleおよびその子会社、関連会社の登録商標です。その他の名称はそれぞれの会社の商標です。

